

大分県豊後高田市

《活動主体の概要》(平成27年10月1日現在)

総人口： 22,820人

高齢者数： (高齢化率 36.4%)

世帯数： 9,640世帯

産業構造：基幹産業の農業：2割、製造業：3割、サービス業：5割

地理的構造：瀬戸内海に面し一年を通じ温暖な気候に恵まれ、海岸部は「長崎鼻」に代表されるリアス式海岸から、「日本の夕陽百選」にも選ばれた干潟が美しい真玉海岸、山間部には夷耶馬等国東半島の独特な自然に囲まれている。

活動のきっかけ

豊後高田市では、平成17年3月の市町村合併に伴い策定した新市建設計画及び総合計画の最重点プロジェクトとして、ケーブルネットワーク施設整備を行いました。

平成20年6月に開局した豊後高田市ケーブルネットワーク施設では、市内の全世帯を対象として、光ファイバーを使ったFTTH方式による光回線網を構築し「各種行政情報の提供」「高速インターネット」「テレビの多チャンネル放送」「各種在宅サービス」といった様々なサービスの提供を行っています。

そのような中、全国的に、「孤独死」が問題となっており、亡くなって何ヵ月もたってやっと発見されるような事件を新聞やテレビで見かけます。

何かあった時にすぐに知らせる体制と、知らせを受けてからすぐに支援ができる体制の両方の体制が必要であり、安否確認サービスについては、豊後高田市社会福祉協議会と連携し、一年間の準備期間を経て、平成21年度から実施しています。

活動方法

ケーブルネットワークの構築により、「安否確認見守りネットワーク事業」と「緊急通報システム」をセットで推進して

きました。

ケーブルネットワークを活用した「双方向性多機能情報取得端末機」(告知端末)によって新たな見守り体制を構築し、高齢者や障がい者等の皆さまに住み慣れた地域の中で安心・安全な生活を支援するためにサービスを実施しています。

人感センサー



【安否確認サービス】

80歳以上の方、重度の心身障害のある方の自宅に設置した「人感センサー」のログ情報を告知端末機器から「安否確認サーバ」を経由し、社会福祉協議会のパソコンに表示させます。

午前4時から午前9時の間に「人感センサー」に反応がない場合、あらかじめ指定した近隣の協力者に社会福祉協議会から安否の確認依頼を行います。協力者が不在の場合は社会福祉協議会の職員が直接訪問し、安否確認を行います。

【緊急通報サービス】

80歳以上の方、65歳以上で虚弱な方、重度の身体障害がある方等が、自宅に設置した告知端末の緊急ボタンを押すことで、通報先連絡員に連絡がいき、連絡が取れない場合は、消防署の救急隊へと順次に通報されることとなっており、緊急時の初期対応として、いち早く利用者宅へ駆けつけ、救援・救助等の対応を行っています。

工夫点

「安否確認見守りネットワーク事業」の推進については、市内全域を対象に各校区単位で地元説明会を開催し、同時に申請、設置を促進してきました。

また、毎月80歳を迎えられる方々への啓発をはじめ、社会福祉協議会や各地区の民生・児童委員等とも連携し、未加入者への促進を行っています。

なお、80歳以上で構成する世帯の方については、ケーブルテレビ利用料の免除を行うなど、安否確認、緊急通報サービスでの福祉の充実を図ることを目的として、利用料免除制度を設けています。

成果

何よりも、利用者本人はもとより、遠方のご家族にとって365日の見守りは、大きな安心につながっていると思います。

実際のケースとして、センサーの反応がないため、自宅に直接安否確認をしたところ、居間で倒れて動けない状態の利用者を発見し、直ちに救急搬送し、大事に至らなかったケースもありました。

課題

本人が旅行や外出で家を空ける際、事前に社協へ連絡する手間を忘れるといった誤報による対応の増加と、高齢化等により近隣の協力者の確保が難しくなりつつあります。

年間に約1000件を超える「異常通知」が発生する中、実際に現場へ急行するケースも2割程あり、幸にも、その多くが就寝中であったり、泊まりがけで家を留守にしていたなどのケースとなっています。

サービス開始時から時間の経過とともに、再度、利用者に対してシステムの周知などが必要になっています。

代表者、事業者等の声



豊後高田市社会福祉協議会
安否確認サービス担当：安藤

地域支援事業の一環として、この安否確認見守りネットワークサービスは、ケーブルネットワークが整備された本市ならではの強みを活かしたサービスであり、実際の利用者はもとより、ご家族の皆さまからも大変ご好評いただいているところです。

今後、地域での安全で安心な暮らしを応援するため、一人でも多くの方に本システムをご利用いただけるよう推進していきたいと思っています。